

令和3年10月 東京地区百貨店売上高概況

令和3年11月25日

I. 概況

1. 売上高総額	1,048億円余
2. 前年同月比(増減率)	4.9%(2か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭6.8%(91.7%)：非店頭-12.3%(8.3%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 24店 (令和3年9月対比±0店)
5. 総店舗面積	803,330㎡ (前年同月比：-2.0%)
6. 総従業員数	15,550人 (前年同月比：-4.7%)
7. 3か月移動平均値	3-5月 63.6%、4-6月 51.3%、5-7月 16.3%、 6-8月 1.5%、7-9月 0.4%、8-10月 -0.7%

【参考】 令和2年10月の売上高増減率は-4.3% (店舗数調整後)

【特徴】

- (1) 10月の東京地区は、緊急事態宣言の解除によって外出機会が増加したことで、組織顧客を中心に一般客も含めた来店動向に好影響があり、売上高(4.9%増/2か月連続)、入店客数(3.0%増/3か月ぶり)共に前年実績を上回った。一方、前々年(2019年)比では、売上高は0.4%増だが、入店客数は25.7%減とコロナ禍前の水準には戻っていない。
- (2) 商品別では、主要5品目全てがプラスとなった。品目別の動向では、月後半の気温低下により、厳しい状況が続いていた主力の衣料品(1.8%増/3か月ぶり)に、一部復調の兆しが見られた。コート、ジャケット、ブルゾン、ニットなど防寒アイテムが好調だったほか、買い替え需要やオケーション需要も寄与した。
- (3) 身のまわり品(7.3%増)は、依然好調に推移しているラグジュアリーブランドに加えて、外出や出勤の増加で、ブーツやハンドバッグなどおしゃれ商材全般への消費マインドが高まってきた。雑貨(6.8%増/2か月連続)は、高級時計(美術・宝飾・貴金属：17.1%増)を中心に引き続き好調を維持しているほか、化粧品(1.9%増)は、美容部員によるタッチアップが順次再開されたことで、メイクアップアイテムに動きが見られた。
- (4) 食料品(9.1%増/2か連続)は、宣言解除による人の移動・往来の活発化で、手土産需要が復調傾向を示し、菓子(15.1%増)は和洋菓子共に好調だった。おせちやクリスマスケーキは昨年以上に早期予約傾向が強まり、受注状況は前年を上回るペースで推移している。
- (5) 11月中間段階の商況は、7.7%増(11/17)と引き続き回復基調にあるが、前々年比では約13%減と、未だ商況の厳しさは続いている。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数17店舗)
①増加した：8店、②変化なし：6店、③減少した：3店
- (3) 10月歳時記(秋物商戦、秋の行楽)の売上(同上/有効回答数15店舗)
①増加した：3店、②変化なし：11店、③減少した：1店

東京地区百貨店 売上高速報 2021年10月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	104,802,000	100.0	4.9
紳士服・洋品	8,789,178	8.4	-1.7
婦人服・洋品	17,949,999	17.1	5.9
子供服・洋品	1,817,119	1.7	-11.8
その他衣料品	1,819,760	1.7	-3.3
衣 料 品	30,376,056	29.0	1.8
身のまわり品	14,853,412	14.2	7.3
化粧品	8,260,741	7.9	1.9
美術・宝飾・貴金属	11,283,211	10.8	17.1
その他雑貨	3,752,422	3.6	-8.1
雑 貨	23,296,374	22.2	6.8
家具	1,342,598	1.3	8.8
家電	731,266	0.7	-10.0
その他家庭用品	3,032,434	2.9	1.1
家 庭 用 品	5,106,298	4.9	1.2
生 鮮 食 品	3,416,245	3.3	-6.3
菓 子	6,565,888	6.3	15.1
惣 菜	7,096,628	6.8	13.3
その他食料品	8,664,721	8.3	8.4
食 料 品	25,743,482	24.6	9.1
食 堂 喫 茶	1,783,289	1.7	2.0
サ ー ビ ス	1,650,176	1.6	-2.3
そ の 他	1,992,913	1.9	-13.7

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商品券	1,454,695 千円	-4.2
従業員数	15,550 人	-4.7
店舗面積	803,330 m ²	-2.0

営業日数	31.0 日	前年	31.0 日
------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、衣料品が3か月ぶり、身のまわり品、雑貨、食料品が2か月連続、家庭用品が4か月ぶりにプラスとなり、全ての品目でプラスとなった。その他の品目は、美術・宝飾・貴金属が9か月連続、菓子、惣菜が8か月連続のプラスとなったが、生鮮食品は5か月連続のマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	4.9	—	2か月連続プラス
紳士服・洋品	-1.7	-0.2	3か月連続マイナス
婦人服・洋品	5.9	1.0	2か月連続プラス
子供服・洋品	-11.8	-0.2	3か月連続マイナス
その他衣料品	-3.3	-0.1	3か月連続マイナス
衣料品	1.8	0.5	3か月ぶりプラス
身のまわり品	7.3	1.0	2か月連続プラス
化粧品	1.9	0.2	2か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	17.1	1.7	9か月連続プラス*
その他雑貨	-8.1	-0.3	3か月連続マイナス*
雑貨	6.8	1.5	2か月連続プラス
家具	8.8	0.1	4か月ぶりプラス
家電	-10.0	-0.1	2か月連続マイナス
その他家庭用品	1.1	0.0	4か月ぶりプラス
家庭用品	1.2	0.1	4か月ぶりプラス
生鮮食品	-6.3	-0.2	5か月連続マイナス*
菓子	15.1	0.9	8か月連続プラス*
惣菜	13.3	0.8	8か月連続プラス*
その他食料品	8.4	0.7	8か月連続プラス*
食料品	9.1	2.1	2か月連続プラス
食堂喫茶	2.0	0.0	3か月ぶりプラス
サービス	-2.3	-0.0	5か月連続マイナス
その他	-13.7	-0.3	8か月連続マイナス
商品券	-4.2	-0.1	5か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>